

寄り合い語り合い

ウサギヤマの酒っこ飲み

ああ、クマ撃ちの話かあ、そりゃあ一晚語り明かしたってえ、語りつきねえは。

冬のウサギヤマ（集団でのウサギ狩り）の後な、みなで酒っこ飲みだは。それが面白（おもしろ）んだ、また。そっちでもこっちでも、鉄砲撃ちの自慢話だの、自慢でねえ話だの話しでて、もうなんのかわかん、だれの話聞いたらいいか、わけわかんねえんだ。

（『升沢にくらす』 p.183）

升沢のバクチ宿

思い出。思い出うんとあって、これ何語（かた） っていいか分がんねな。

ああ、ほだねえ、お正月の休みにドッピキ（賭けを伴うくじ引き）したりね、花札で博打か。お正月、仕事あんめえちゃ。ああゆう田舎だからね、やっぱり宿さ集（あつば）るわけしゃな。何にもねえからは、楽しみってね。あそこ、博打しかなかったなや。あとドッピキつの。てんでに宿とってたんだ。ほのあたり、穴開き銭っこだから、一銭二銭だべなや。

そうそう、あすぐ（早坂林右衛門・澄子家）、家大っきいしねえ、年寄りがいなくて二人ばりだったから、寄りやすかったんだすべ。世話（しえわ）好きだからほれ、毎晩寄ったもんだおなや。野郎（やろ）っこたち、こっちの炉でドッピキして、あっちでは花札しでるわけしゃ。あのね、宿してやってえ、あど終わってから、ドブ（濁り酒）飲ましえらってはねえ。人さ御馳走（ごつつおう）するの、喜んで。ほだねえ。澄子家（え）では、（ドブ）うまく作ったんだなあ。腕あったんだ。餅食（か）しえで、酒飲ましえで、宿してたのなや。あど、あんまりあいつだとなや、鉄砲撃（ぶ）ち追っかけていくんだなや、みんなしで。そうして獲ってくると、まだのは宿すんのさ。ウサギー匹獲っても、澄子さん家（え）宿な。

なあに、調子いいときなら、十一時十二時ころまで居てくんだ。ほんだ、夜お明けとごで、寝たおなあ。うん、朝まで寝でんだおん。元日の日だったな。年取りの晩から行くんだったおなあ。

いい思い出あったおねや。

（『升沢にくらす』 p.252）

手作りの演芸会

むがしね、ほんっとのむがしい、電気もつかねえばん、二十年代すかやあ。演芸会なんつの、やったんでがすとお。歌歌ったり、踊りっこ踊ったりさあ。おらたちの若いころやったんでがすとお。お盆ころでねかったべかねえ。公民館なんつうのも、ねえとぎだったからねえ。普通の家（うち）でやったのさあ。例えばほれ、「さんさ時雨」歌ったりね、「佐渡おけさ」踊ったりね。うん、（劇は）いあんべえ台本作（つづ）ってね。とにかくほれ、年寄りどもお、笑わしえればいいのだからあ。上手とが下手とか

でねぐ。一日をいかにして楽しませっかということやって。

衣裳は、いろんな、女の人（ひ）たちに借りてきてやるわけしゃ。うん、夜だからね、練習での。種沢と下原と、おら家（い）中心でがすぺっちゃ。で練習はおら家（い）でやったんだね。やっぱり、やり始めとしゃあ、適材適所でねえ、この人はなにも出来（で）ねえと思ってても、いろんな方さ、「こいつ良（い）んでねえか」と廻してやっと、すごく上手な人いたんだおね。

やっぱり、じんちゃん、ばんちゃんたちがね、楽しみにして待ってだもんだおね。お新香持ってきたり、酒っこ持って来たりしでね。そしであと、みんなで終わったら飲むわけしゃ。そゆのが、やっぱり、遊（あす）びの楽しみだったのね。糧（か）で飯も食ったけども、面白いこともあったんだね。

（『升沢にくらす』 p.272）